

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公開します。

会 議 名	平成28年度第2回高松市在宅医療連携会議
開 催 日 時	平成28年7月20日（水） 19:00～20:35
開 催 場 所	高松市医師会館 2階 大会議室
議 題	1 新委員の紹介等について 2 医療介護情報便利帳（仮称）部会の報告について (1) 原案（表紙、各項目レイアウト、地図情報） (2) 名称 (3) スケジュール (4) 配布部数の確認（案） 3 退院支援・医療介護連携部会の報告について 4 平成27年度在宅医療コーディネーター養成研修アンケート結果の報告について 5 その他 (1) 高松市在宅医療・介護連携推進事業年次計画について (2) シンポジウムの日程について (3) 新しい総合事業（介護予防・日常生活支援総合事業）のパンフレット・カレンダーについて
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	17人 吉澤委員長、大原職務代理、青木委員、安藤委員、大橋委員、長内委員 片山委員、木村委員、多田委員、田中委員、辻委員、永岡委員、中村委員 坂東委員、古川委員、松本委員、三宅委員
関係者	市医師会事務局（3人）、在宅ケア便利帳作成委託業者（2人） その他：医師会（伊藤副会長）、県随員（1人）
傍聴者	0人
担当課及び連絡先	長寿福祉課 地域包括ケア推進室 839-2345 介護保険課 839-2326 地域包括支援センター 839-2811 保健対策課 地域医療対策室 839-3805

### 協議経過及び協議結果

#### 1 新委員の紹介について（資料1、2、3）

○事務局から、新委員の紹介がある。吉澤委員長からリーダー、サブリーダーの任命。  
 →質問等なし

## 2 医療介護情報便利帳（仮称）部会の報告について（資料4、4-1、4-2、4-3、4-4）

○A 委員より、医療介護情報便利帳（仮称）部会の報告がある。

→正式名称は、高松市在宅ケア便利帳に決定。

→便利帳のレイアウトについて業者より説明あり。

(B 委員) 介護機関で在宅サービスには特養や老健施設とかは入っていないということでもよろしいですか。あくまでも在宅医療という。

(事務局) 介護機関については、高松市が出している介護施設一覧表に沿って、居宅サービス・地域密着型サービス・施設サービスを全て載せる予定です。

(B 委員) 介護機関在宅サービスとは別に介護機関施設サービスというのがあるということでもよろしいですか。施設サービスは介護機関の在宅サービスの書き方になるのですか。

(委員長) そこは変わります。

(B 委員) それと、特定施設入居者生活介護、本来介護機関になっているのですが、これは住まいの方に、いわゆる有料老人ホームもこちらということ考えていいのですか。

(事務局) 住まいについては、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、ケアハウスの大きく3つに分けて掲載予定です。

(B 委員) それは特定施設生活介護という介護保険の一つのグループにはなるのですが、それはそれで置いておいて、「住まい」という分かりやすい表現でここに掲載するという認識でよいですか。特定施設入居者生活介護だけ本来の冊子と違うので。

(事務局) 特定施設入居者生活介護というのが、有料老人ホーム、ケアハウス、サ高住その中の一部ですので、「住まい」の中でそれを示すということで宜しいでしょうか。

(B 委員) それであれば。施設サービスとの違いが分からなかったの。

(事務局) 「施設サービス」は、介護保険の3施設を想定しておりまして、「住まい」については介護保険上、在宅扱いとなりますので、分けさせていただいております。

(委員長) 必要部数についてご意見はありませんか。

(C 委員) 病院は訪問診療をしているところを主として掲載するのですね。訪問診療をしていない病院には配布しないのですか。

(委員長) 掲載可でも訪問診療をしていない病院・診療所は今回掲載されません。

(C 委員) 掲載されないと配布されないということですよ。そうすると急性期中心の大きい病院も外れる場合があるのかと。

(委員長) そうなりますね。

(C 委員) 外来に訪問をお願いすることもあるので。

(委員長) ページが減少しましたので、掲載可とした34施設は配布するようにします。

(医師会) 医師会の事業でもあるし、掲載してない病院・診療所も紹介する場合がありますから。

(委員長) 掲載自体はどうしますか。

(医師会) 掲載は希望したところだけでいいと思います。アンケートに答えていない施設

が載らないとしても、患者さんに紹介しなければならない場合もあると思います。

(A 委員) では、アンケートに答えていない施設にも送付した方が良いということですか。そうするとまた増えますか。

(委員長) 増えます。

(医師会) それこそ実費でもいいですし、市に負担してもらうのでも。

(C 委員) 実費で大丈夫かと思えます。

(委員長) 掲載可の病院・診療所には全て無料で送るが、アンケートの回答がないか掲載不可の病院・診療所で欲しいというところには実費負担してもらうように。

(医師会) それで大丈夫です。

(委員長) おかげさまで便利帳ができそうな気がしてきました。

### 3 退院支援・医療介護連携部会の報告について(資料5)

○C 委員より退院支援・医療介護連携部会の報告がある。

(D 委員) 質問ですが、今から退院予定の方の検討をするのか、過去の事例を検討するのか。

(C 委員) 両方あると思います。今まさに退院を考えているというのでもいいし、直近のところで検討してはどうかというのでも。

(D 委員) どちらにしても、地域に浸透させるというのが目的ですので、関わっている方には必ずお声かけをしていただき、まだ在宅をしていないかかりつけ医が関わっているケースであれば関わっていただくとか、かかりつけ医との付き合いが強いですので、その辺りの意見も取り入れて頂ければと思います。

(C 委員) ありがとうございます。

(委員長) 実際の症例ですので、関わっていただいた医師にも積極的に声をかけてやっていければ。ご協力よろしくお願い致します。

### 4 平成27年度在宅医療コーディネーター養成研修アンケート結果の報告について(資料6)

○E 委員より資料6の説明がある。

(A 委員) 研修の開催日ですが、開業医の先生は、木曜日お休みのところもありますし、曜日をもう少し検討してもいいではないかと。

(委員長) 参加者をもう少し実際の患者さんや家族に接する立場である人だけにすると、今後すぐに生かせるのかもしれない。次の募集の際にディスカッションしていきたいと思います。それから、期日の問題ですが、これは県の方をお願いしたいのですが、一刻も早く今年度分がスタートできるようにできませんか。年度内に開催しないといけないので、非常にスケジュールがきつくなります。本音としたら、7月、8月くらいから始められたらと思います。また、松山市で開催された、緩和ケアコーディネーターの人達の事例発表会に参加したことは非常に好評でした。全員参加は難しいですが、実習等もフォローアップの研修に組み込むと良いと思います。

(D 委員) 去年は1か月半で準備してくれと言われ、時間そのものがないのです。外部の

先生を呼ぶのであれば、最低3か月は必要で、いい先生になると、1年前から予約が必要な状況です。行政の方にもう少し応援していただきたいと思います。それとコーディネーター養成後の活動の場を作らないと、やりっぱなしでは何にもならない。できれば行政の業務の中にコーディネーターを入れるようなプログラムを組んでいただくとか、検討会等地域包括の活動の場に呼んでいただけたらとか、活動できる場を作れるようなご協力、ご提案をいただければ非常にありがたいと思いますので、よろしくお願い致します。

(委員長) 企画で一番問題になっているのは、研修に使った費用の領収書の日付が、県議会が終わった後、しかも3月31日までのものでないといけないので、なかなかスタートできないのです。また、活動場所ですが、今年度の基金でも申請しているのですが、在宅医療支援センターというものを作るということを考えています。もし支援センターができましたら、コーディネーターが活動できる場所ができると思います。それともう一つ、県の方から各自治体の保健師さん達をこの講習に参加させていただきたいという提案がありました。そうなりますと募集人数にも関わってきますが、受け入れることにつきましては前向きに考えていきたいと思っておりますし、それにより、研修を受けた人同士の連携が取ればと思います。

## 5 その他について (資料7)

○事務局より資料7の説明がある。

(D 委員) 在宅医療コーディネーターフォローアップ研修は市の予算でしていただけるのですか。

(事務局) はい。フォローアップの方はそうです。

(D 委員) 具体的にどのぐらいの予算で、どのような計画なのですか。

(委員長) 打ち合わせ会をフォローアップ研修会として実施予定です。

(D 委員) それ以外の企画というのは。

(委員長) それはまだないです。別で考えてくれてもいいです。あるいは今年度の研修会の後にフォローアップ研修をして、OBに参加してもらうのもいいかなと思います。

(D 委員) 予算がなければ動きようがないので、予算をある程度提案していただきたいです。例えば県外の研修に去年の卒業生に声をかけることも可能ですけれども、どういう風にスケジュールを組んだらいいのか全く分からないので、市の方でイメージを提案をしていただければ、それに合わせてプログラムを作成していけるとと思います。

(事務局) はい。分かりました。医師会との協議で、10月ぐらいに予算を提示しているのですが、来年度広くフォローアップ研修をやっていくということであれば、予算の方も具体的に検討させていただければと思います。

(D 委員) ということは、今年度はないのですか。

(委員長) 今年度は便利帳の金額により、どのくらい使えるかということになります。と

りあえず便利帳をきっちり出さないといけませんので。会議そのものの予算は前年度と比べて倍くらいになっていますので、そうなると、実施することはできません。

(事務局) だいたい会議開催費用で200万、便利帳で1200万、シンポジウムで200万ということで今年度予算の計画を立てているところでございますけれど、フォローアップ研修につきましては、十分な検討が出来ていなかったもので、来年度はまたご検討を。

(委員長) この予算はトータルで1600万の中で納まれば、比率は変わっても構わないのですか。

(事務局) そうですね。今回でしたら事例検討会を一緒にするという事なので、いろんな実施の仕方があるかと思いますが、この予算内であれば。

(委員長) 例えば便利帳で1200万の予定が1000万で済んだとしたら、残りの200万をこの委員会の他のものに使っても構わないのですか。

(事務局) そこは後程、お聞きください。

○シンポジウムの日程について事務局より説明がある。

○新しい総合事業について事務局より説明がある。

#### 【次回の日程】

平成28年度第3回高松市在宅医療連携会議を、平成28年9月28日（水）19：00～高松市医師会館にて開催することとなる。

8月24日に退院支援・医療介護連携部会を開催することとなる。

8月31日に便利帳部会を開催することとなる。